

統合版

糖尿病を正しく知り正しく恐れよう

国際医療福祉大学成田病院 糖尿病・代謝・内分泌内科部長 竹本 稔

糖尿病とインスリン

糖尿病は慢性的に血液中のブドウ糖濃度(血糖)が高くなり、様々な合併症をおこる病気です。ブドウ糖は体の大切なエネルギーで、特に脳の主なエネルギー源です。このブドウ糖を血液中で一定濃度に保つ

重要なホルモンの一つが、膵臓が分泌するインスリンです。多くのホルモンは血糖値を上げますが、下げるのはインスリンだけです。インスリンの発見は今からちょうど100年前の1921年。カナダのフレデリック・バンティングと

ドロス議長が新型コロナウイルスのパンデミック宣言を出しましたが、実はそれ以前から世界中で糖尿病患者は増加し「糖尿病ハンデミック」と呼ばれています。2019年の20歳~79歳の糖尿病有病率は9.3%、11人に1人が糖尿病と推定

飲、多尿、体重減少、倦怠感などの症状が現れます。慢性の高血糖の結果、合併症が生じます。三大合併症のうち「神経症」は下肢切断につながり、「網膜症」は失明の原因に、「腎症」は日本の人工透析導入原因の第一位です。そのほか脳卒中、狭心症、心筋梗

製剤が病態に合わせて選択されます。現在9種類の経口剤を使用でき、週に1回の注射薬もあり、多種多様になってきました。現在では残念ながら糖尿病を治すことはできませんが、糖尿病があるからこそ「有酸素運動」、健康的な生活を心がけ、素晴らしい人生を歩むこともできます。また、インターネットには様々な情報が溢れています。正しい知識はぜひ医療従事者から直接得てください。当院でも医師や看護師、管理栄養士などによる「糖尿病教室」を毎月開催しています(詳細11面)。

増え続けている患者数 合併症や脳・心疾患も

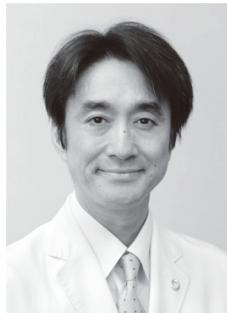
その功績を称え、バンティングの誕生日11月14日は「世界糖尿病デー」とされ予防と啓発のため世界中で建物がブルーにライトアップされます。当院でもライトアップを行いました。

世界的な大流行を表す「パンデミック」という言葉があります。昨年3月にWHOのテ

日本でも糖尿病が増え続けている。日本での患者数増加の正確な理由は分かりませんが、交通網の発達による運動不足、食生活の欧米化、そして肥満者の増加が関連していると考えられます。

糖尿病の治療は▽規則正しい生活▽健康的な食生活▽定期的な運動を基本として、経口血糖降下剤や注射

新しい生活スタイルを模索する機会を逆手にとり、ぜひご自身の生活を見直して、コロナ前よりも健康的な日々を送りましょう。



竹本 稔(たけもと みのる) 主任教授 国際医療福祉大学医学部 糖尿病・代謝・内分泌内科

す「パンデミック」という言葉があります。昨年3月にWHOのテ

糖尿病はインスリンの量の不足や作用の不足によって発症し、高血糖を引き起し

糖尿病の治療は▽規則正しい生活▽健康的な食生活▽定期的な運動を基本として、経口血糖降下剤や注射

国際医療福祉大学成田病院 / 成田市畑ヶ田852 / ☎0476・355・5600(代)